関連学会消息

日本歯科医史学会

当会のあゆみ　日本歯科医史学会は、昭和四十一年（一九六六）十一月七日午後六時から湯島会館（現ガーデンパレス）で発起人会を開き、その席上で「歯学史集談会」を発足させることを決定した。そして第一回歯学史集談会が、昭和四十二年（一九六七）一月二十八日午後二時から日本大学歯学部大学院小会議室で行われた。この歯学史集談会は、昭和四十五年（一九七〇）四月から「歯学史研究会」と改められ、さらに昭和四十八年（一九七三）から「日本歯科医史学会」と改称された。翌四十九年（一九七四）一月二十六日付で、日本歯科医学会の第十三分科会として公認され、全国的学会となった。

理事長　谷津三雄
会　長　滝口　久

機関誌の発行　それに伴い機関誌も、昭和四十四年（一九六九）二月創刊の『歯学史研究 *Studium Historiae Dentarie*』から『日本歯科医史学会会誌 *Journal of the Japan Society of Dental History*』と改称された。その第一巻第一号が昭和四十八年（一九七三）八月に発刊された。誌名は改められたが、創刊の『歯学史研究』以来の通巻号を添えることにし、この第一巻第一号は通巻第六号となった。さらに、昭和五十一年（一九七六）より年四回発行することとなった。

学術大会(総会)の開催と活動状況　日本歯科医史学会総会（学術大会）は第一回（昭和四十八年度学術大会）が、昭和四十八年十月二十七日に会長は山田平太理事で、東京医科歯科大学で行われて以来、昭和六十二年度学術大会で第十五回をかぞえる。特に、第八回日本歯科医史学会総会（昭和五十五年度学術大会、会長鈴木勝教授）は第八十一回日本医史学会総会（理事長　小川鼎三教授）と第二十五回日本薬史学会総会（会長　木村雄四郎博士）と同時開催であった。この医歯薬学史合同総会（学術大会）を第八十一回日本医史学会総会（会長　鈴木勝日本歯科医史学会理事会、副会長　谷津三雄）と呼称し、日本大学歯学部大学院講堂を会場として、昭和五十五年十月十一日（土）、十二日（日）の両日行われた。

この日本で最初の医歯薬史合同総会（学術大会）では、日本医史学会から古川明博士が「医学、歯学、薬学のシンボル『蛇杖』」、日本歯科医史学会から中国の周大成教授が「中国、口腔医学発展簡史」、薬史学会から伊藤和洋博士が「アユルヴェーダの薬物」と題してそれぞれ特別講演を行った。

なお、第十五回日本歯科医学会総会（会頭　白数美輝雄日本歯科医学会会長）と第七十一回ＦＤＩ年次世界歯学大会（会長　山崎数男日本歯科医師会会長）は昭和五十八年（一九八三）十一月十四日から二十日まで東京で開催された。大会開催中の十六日から十八日の三日間にわたり、学術展示として「日本の歯学史展」を本学会が中心となり併催行事を行った。展示場の周囲の壁に日

本における医歯薬に関する浮世絵を配した。また、会場中央のショーケースには、わが国固有のものと考えられる木床義歯を展示し、その製作過程なども説明された。そのほか、お歯黒、楊枝、古医書が供覧された。印刷物としては「日本の歯学史」として学術展示物を二十頁にまとめた“Dental History in Japan”が配布された。この冊子は、西欧の医学史とは異なった日本独自の歯科医学に関する歴史的資料を、原色写真入りの五カ国語版で作成したものである。

なお第十六回総会昭和六十三年度学術大会は滝口久教授が会長で日本大学会館を会場として昭和六十三年十月二十二日に行われる。

例会　日本医史学会の開催月と八月を除き毎月第三金曜日、午後六時から八時まで、東京で月例会が行われており、昭和四十二年一月二十八日の第一回歯学史集談会（月例会の前身）から昭和六十二年十二月十八日の例会で第一八〇回をかぞえる。なお、関西地方会が年二回、別に行われている。

会員数は約三五〇名で少ないが、各会員はめいめい別の専門を持ちながら歯科医史学へ無限の情熱を傾けている好学の士の集りである。入会を希望する方は、〒二七一　千葉県松戸市栄町西二―八七〇―一　日本大学松戸歯学部歯学史研究室（TEL　〇四七三―六八―六一一一内線二八九）谷津三雄か北嶋まつ子までご連絡頂ければ申込用紙、および振替用紙を送付致します。なお、入会金五百円、年会費五千円である。

（谷津三雄）

日本科学史学会

本学会は、科学史（数学史を含む）および技術史の学会である。一九四一（昭和十六）年に創立され、間もなく五十周年を迎える。会員約九百名を数える。会長は数学史家の黒田孝郎氏であるが、理事・評議員制度をとらず、委員三十名、監査二名、幹事若干名という組織である。全体委員会の下に、常置の委員会として、総務委員会、編集委員会（欧文誌、和文誌の二委員会）、財政委員会、普及委員会がある。機関誌は『科学史研究』（年四回）と *Historia Scientiarum*（年二回）を発行している。『科学史研究』は、第一号が一九四一年十二月二十九日に発行されて、一九八八年一月現在一六三号が発行された。欧文誌は、一九六二年以来 *Japanese Studies in History of Science* として、年一回発行されてきたが、その後、*Historia Scientiarum* と改題され、年二回発行されるようになった。年会・総会は年一回開催され、一九八七年度は東京大学教養学部で行なわれた。分科会は生物学史分科会、支部は関東、京都、阪神、中四国、東北、北海道の各支部があり、それぞれ例会、大会、総会を開催している。生物学史分科会は『生物学史研究』を年二回発行している。

本学創立のころとその後の歴史については、平田寛「科学史学会創立のころ」（平田寛『ガリレオの椅子―科学史とその周辺』一三九～一七四、恒和出版、一九八〇年）や湯浅光朝「学会創立三十年の回想」、岩城正夫「日本科学史学会三十年の歩み」（『科

学史研究』一〇〇号、一九三～二〇一、一九七一年）を参照していただきたい。本学会は科学史技術史分野を包含するわけであるから、当然医史学も含まれる。創立メンバーには、太田正雄、山崎佐、緒方富雄氏たちが加わっていた。もちろん、現在も日本医史学会会員が入会し、活躍している。大塚恭男、井手一郎、石田純郎、岩崎鐵志、浦川朋司、遠藤正治、大森實、梶田昭、片桐一男、川上武、蒲原宏、木村康一、木村陽二郎、蔵方宏昌、小曽戸洋、小林雅夫、酒井シヅ、佐藤昌介、佐藤達策、清水勝嘉、末中哲夫、杉立義一、宗田一、立川昭二、道家達将、中川米造、中村禎里、長門谷洋治、檜木田辰彦、真柳誠、松尾信一、丸山博、三浦豊彦、宮下三郎、向井晃、室賀昭三、森村謙一、安井広、安江政一、矢部一郎、山形敞一、山本徳子、梁哲周、湯浅光朝、吉田忠の諸氏である。緒方富雄、大鳥蘭三郎、故阿知波五郎氏たちも数年前まで会員で活躍された。その他、医史学家で、日本医史学会員でない日本科学史学会員がかなりおられる。

一九八七年度年会での発表を見ると、松尾信一「大蔵平三編『馬学説約』（明治十五年）の調査」、安江政一「自然科学を発生、発展させる環境について（その四）江戸時代の本草学の発展と幕府権力の影響」、石田純郎「シーボルトの受けた科学教育」、梶田昭「疾病観の変遷。一病理学者の目」、斎藤光「E. Forbes と生物の地理的分布」、伊達英一「トランスフォーミズム理論史におけるダーウィンの自然選択概念について」、大網功「古代インドの運動論Ⅳ—Vaiśeṣika 学派Ⅳ」などがあった。

『科学史研究』には、最近、医史学および関連分野のもので、論文、研究ノート、アゴラとして掲載されたものはあまり多くない。中川保雄「広島・長崎の原爆放射線影響研究」（一五七号、一九八六）、宮下三郎「『製煉発蒙』とブレンク化学書の和訳」（一五八号、一九八六）、寺田晃「日本の金漆」、矢部一郎「『植学啓原』二四綱図とリンドレー『植物学』にかかわる疑問」（一五九号、一九八六）、富田徹男「銅鐸の動物図柄と延喜式神名帳について」（一六〇号、一九八六）、大網功「古代インドにおける Vaiśeṣika 学派の運動論（Ⅱ）—身体の運動」（一六二号、一九八七）などである。しかし「紹介」では、数多くの医史学書がとりあげられている。また、年一回「科学技術史関係年次文献目録」が載せられている。一九八六年度は一五九号、一九八七年度は一六四号である。ここで、医史学、薬史学文献が目録化されている。「年次文献目録」は『科学史研究』の看板・目玉記事で、多方面の方が利用し、喜ばれている。一度御覧になって見ればよく分るはずである。筆者は一五五号（一九八五）から編集委員長をしている。

会員は正会員と学生会員（その他名誉会員、在外国会員）がいる。会費は、A会費（和文誌の配布を受ける）、B会費（和文誌ならびに欧文誌の配布を受ける）に分けている。正会員のA会費八千円、B会費一万三千五百円、学生会員のA会費五千円、B会費一万五百円である。事務局は、東京都中央区日本橋二—十六—三（〒一〇三）日本橋中央ビル九一号。電話は〇三（二八一）一一五七、振替口座は東京二—一七五三一六である。

入会の手続きについては、入会申込書の送付と入会金（三千円）・

会費の郵便振替を必要とする。申込書の請求や問合せは事務局に郵便(ハガキ可)で行なわれたい。会員の権利は、機関誌の受領・投稿、年会その他の学術的会合への参加・発表、『科学史通信』(年数回)の受領などである。入会を期待いたします。

(矢部一郎)

日本獣医史学会

日本獣医史学会は獣医史の研究、普及を通して獣医学の発展に寄与することを目的としておりますが、本学会の会員は獣医師に限らず、いろいろの分野の方に入会していただいており、医史学会会員の方々のご入会を大いに歓迎申し上げます。

本学会は昭和四十七年に日本獣医史研究会として設立され、昭和五十一年に日本獣医史学会と名称を変更、現在会員数は二一七名です。

年一回春に総会および例会を、秋に例会を開いて、研究発表、資料展示などを行っております。

昭和六十二年十一月の例会ではつぎのような研究発表がありました。

谷垣康弘　下総御料牧場のできるまで

坂本　勇　オランダ馬医学の起源

木脇祐順　再び『仮名安驥集』の序文について

浜　学　『馬経大全』と『元亨療馬集』

亀谷　勉　獣医針灸学の発展と現況—獣医針灸治療学国際会議に出席して—

柏　頼文　『仮名安驥集』を読んで—同書所載の処方集による馬の呼吸器疾患の治療報告—

機関誌としては『日本獣医史学雑誌』を年一回または二回発行しております。

昭和六十二年十月発行の同誌第二十二号には、つぎのものが載せられております。

長尾壮七　古獣医書『王良二儀秘抄』について

中村洋吉　メルボルン獣医科大学とW・T・ケンダル(Ⅱ)

矢崎信夫　動物検疫からみたジャージー牛の輸入(Ⅱ)

島田謙造　馬医書『意切辨治集』の解読について

間庭秀信　犬人(イヌビト)の衣装について

なお、本学会は獣医関係資料の収集、保存の第一歩として資料所在目録を作成し、会誌に逐次掲載しつつあります。

年会費　四千円(学生会費は二千円)、振替　東京〇—一七九〇八四番

学会事務所　〒一〇一　東京都千代田区三崎町二—一—十五根岸ビル三〇三　日本獣医史学会　電話〇三—二六四—八四一〇

理事長　添川正夫

常務理事　逆瀬川貞幹、黒川和雄、坂本　勇

(添川正夫)